

第1章 計画の概要

1. 本計画を策定する背景

北部地域は豊富な観光資源を有し、高いポテンシャルを有しているものの、認知度の低さや交通ネットワークの脆弱性などの課題も山積している。令和7年度に策定された「やんばる観光地域づくり戦略」でもそれらに言及され、周遊促進が打ち手の一つとして設定されている

内部環境

外部環境

■ 強み(Strengths)

- 国頭3村の世界自然遺産登録による認知度の向上
- ジャングリアの開業による集客力の強化
- やんばるDMOの設立による推進体制の強化
- etc

■ 機会(Opportunities)

- テーマ特化型観光需要の高まり（ガストロノミーリズム、ヘルスリズム等）
- 観光分野におけるDX推進の機運の高まり
- etc

■ 弱み(Weaknesses)

- 観光資源の点在、それらを繋ぐネットワークの脆弱性
- 地域全体としての観光地認知度のばらつき
- 観光客を受け入れる人材の不足(例：タクシー／バス運転手等)
- 外国人観光客数の回復の鈍化
- etc

■ 脅威(Threats)

- 免許を持たない外国人観光客・若年層・高齢者の増加
- 多様な宗教的・文化的習慣への対応（ハラル対応等）
- オーバーツーリズムによる地域環境・住民生活への影響
- etc



上位計画との関係性

令和7年度に策定された「やんばる観光地域づくり戦略」にて、北部地域の観光課題が整理され、その中では「地域周遊に繋げるための広域観光の推進」が打ち手の一つとして定義されている。

—やんばる地域観光づくり戦略から抜粋—

戦略の柱

観光のもたらす効果の地域全体への波及

方針

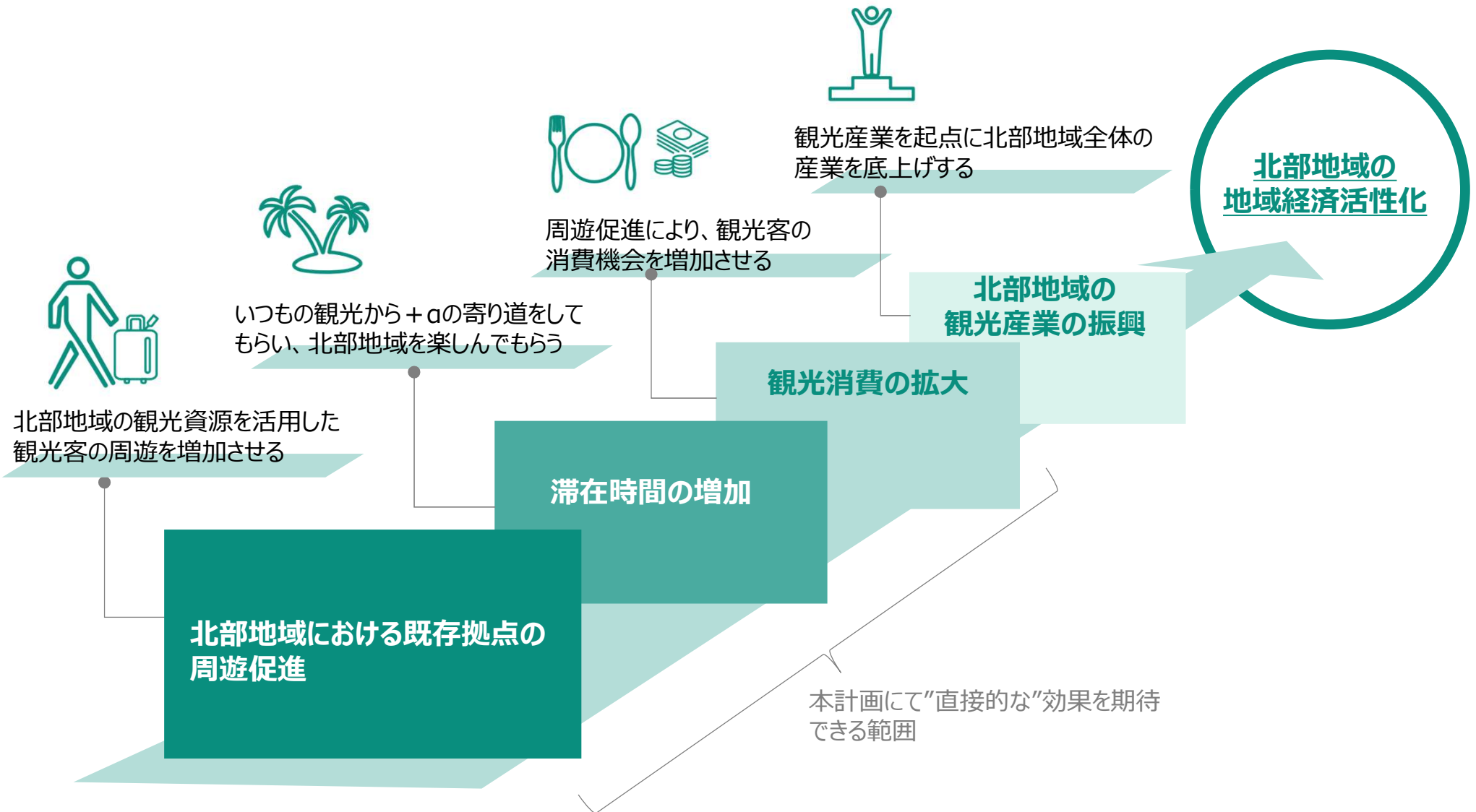
観光客の流動化をもたらす施策の考案と実施

打ち手

地域周遊に繋げるための広域観光の推進

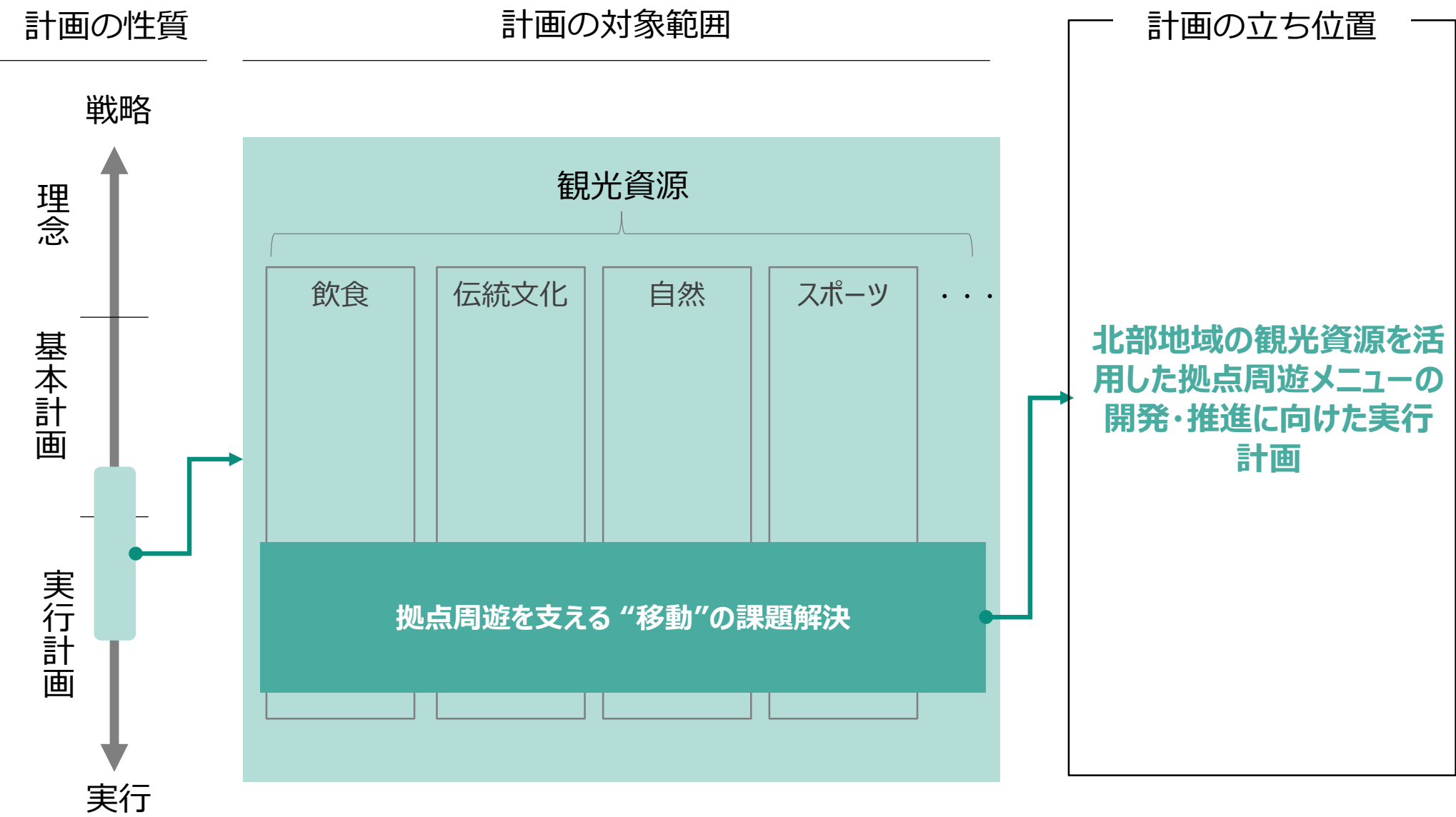
2. 本計画を策定する目的

北部地域の既存観光資源を活用して観光客の周遊を促進することにより、巨大な新規投資を行うことなく、北部地域の（沖縄県の）リーディング産業である観光産業のさらなる活性化を図る。それにより、観光産業から他産業への波及効果を創出して、北部地域全体の産業の振興（地域経済活性化）を目的とする



3. 本計画の立ち位置

本計画は、北部地域全体の観光資源を最大限に活用し、「拠点周遊」を商品／サービス化することで、人々の周遊を促すための実行フェーズのための計画である



4. 本計画で重視する考え方

01



既存の観光資源を 最大限活用すること

新たな観光スポットを創出するのではなく、北部地域に点在している観光資源を「繋ぎ」・「掛け合わせ」することで、北部地域のポテンシャルを活かした周遊促進策を検討する

02



やんばるDMO等の 地域内プレイヤーを主役 にすること

拠点周遊メニューの開発・推進を実際に行うのは、やんばるDMOや地域の観光事業者、交通事業、北部地域の各自治体であるため、それらのプレイヤーの意向に則した検討を行う

03



運用の側面(観光交通) を重視すること

観光客の周遊を促進するためのポイントは、ブランディングやマーケティング等の上流フェーズから、運転手の確保等の運用フェーズまで多岐にわたるが、本計画では、“観光客の移動そのもの”に着目した検討を行う

5. 計画の対象地域・期間

対象地域

・ 沖縄県北部12市町村

大（うふ）やんばる： 国頭村、大宜味村、東村

なかやんばる： 名護市、今帰仁村、本部町

門口やんばる： 恩納村、宜野座村、金武町

島やんばる： 伊江村、伊平屋村、伊是名村



計画期間

計画期間：令和7年度から令和12年度（5年間）

本計画は、令和7年度の計画策定を起点とし、令和8年度に実施予定の実証実験を踏まえて、概ね令和11年以降で段階的に実装していく事を想定。



6. 本計画にて目指す効果

前述の通り、本計画はあくまで北部地域全体の産業振興を目的にしているものの、“直接的な”効果としては、観光客／地域の視点から以下の通りの内容を目指す

観光客の視点

北部地域の観光満足度の向上
(KGI : 観光満足度)

移動ストレスの軽減

これまで知らなかった魅力の発見

拠点周遊メニューの確立

観光客のニーズの明確化

地域(自治体・事業者)の視点

観光消費額の増加
(KGI : 観光消費額)

滞在時間の増加／観光者の増加

北部地域の認知度向上／ばらつきの平準化

北部地域の観光課題の明確化・共通認識化



やんばる観光周遊計画

7. 本計画の構成

